

平成26年度自己評価表

鳥取県立日野高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 小さくてもキラリと光り輝く学校 2 一人ひとりを大切に作る学校 3 地域に信頼される学校	今年度の重点目標	1. 【学力の充実】「わかりやすい授業」を工夫し学力の向上を図る。 2. 【豊かな人間性の育成】ルール・マナーを身につけさせる。 3. 【進路指導の充実】キャリア教育を推進し進路希望の実現を図る。 4. 【光り輝く学校づくり】地域との連携を図る。
---------------------------	--	-----------------	--

年度当初				評価結果(1)月	
評価項目	評価の具体項目	現状	具体的な目標及び方策	評価	経過・達成状況及び改善策
1【学力の充実】 わかりやすい授業を工夫し学力の向上を図る。	授業力の向上	概ね落ち着いた雰囲気の中で、授業が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価をし、授業の自己点検を行う。 先進校視察を実施し研鑽を積むことで、授業力の向上につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業が「分かりやすい」と肯定的な評価をした生徒は66%で、昨年より5%増加した。全ての授業で授業評価を実施し、授業改善に生かした。 プロジェクト委員会を中心に学校改革を進めた。地域と連携した魅力ある学校設定科目を設置した。
	個に応じた学習指導	少人数指導・個別指導で生徒に細やかに対応している。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望や能力に応じた指導を行う。 個別補習・個別面談などを通し、状況把握をし、進路実現を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校での勉強に「満足している」と肯定的な評価をした生徒は69%で、昨年より6%増加し、分かる授業への取り組みが功を奏している。 保護者アンケートで67%の保護者が本校で学んで学力が身についていると回答するなど、少人数指導が軌道に乗っている。
	基礎学力の向上	進学・就職に必要な基礎学力が十分に身につけていない生徒もいる。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力をつけるために、国英数で習熟度別授業を実施している。 基礎学力の向上授業の導入に向け取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別、進路別授業が効果を発揮し、進路実現に必要な学力が身につくにつつまる。 先進校視察を実施し、基礎学力向上に関する取り組みの研鑽を積んだ。 ベーシック作業部会に於いて、基礎学力向上授業の導入に向け取り組んだ。
2.【豊かな人間性の育成】 ルール・マナーを身につけさせる。	TEASの推進	環境に対する意識が高まり、学校の美化が進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 環境委員会を活性化し、校内美化意識向上につながる情報発信に努める。 TEASを継続し、ゴミの分別に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中庭芝生植栽作業を環境委員・生徒有志が中心になって行った。 本校の清掃活動や環境活動に肯定的な評価をした生徒は69%であった。 環境教育校外研修の内容を大幅に刷新して取り組んだ。
	安心・安全な学校生活	指導部と学年の連携が取れ、全体として落ち着いている。	<ul style="list-style-type: none"> 「改善指導カード」を活用し、生徒指導の徹底を図る。 服装、言葉遣い、授業中の態度の指導を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員で指導方針を統一し、共通理解を図りながら取り組んだ。 生徒の73%、保護者の75%が服装・頭髪指導が適切に行われているとアンケートに答え、高い支持を受けている。 生徒は全体として落ち着いた雰囲気です学校生活を送っている。
	特別支援教育の充実	多様な悩みを抱えた生徒に対して、相談・支援体制が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の課題を把握し、ケース会議等を開催し支援を行う。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、若者サポートステーション、特別支援学校とも連携して生徒支援を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで生徒の悩みや問題に対して「適切に対応している」と肯定的な回答が79%で、昨年より15%増加した。 生活指導部と密接に連携して生徒支援を行った。 様々な外部機関とも連携して手厚い支援体制を取り支援した。 生徒支援ネットワーク事業の拠点校として、本校にもその成果を還元した。

評価項目	評価の具体項目	現状	具体的な目標及び方策	評価	経過・達成状況および改善策
3.【進路指導の充実】 キャリア教育を推進し進路希望の実現を図る。	すべての生徒の進路保障	自分の進路を実現するために、具体的に今何をしたら良いのか、不明な生徒もいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・進路専任にとどまらない全職員による指導体制を確立する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し、きめ細かく支援する。 ・進路ガイダンス・講演などを通じ、生徒保護者へ適切な進路情報の提供を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底した面接指導や進学希望者への各教科の個別指導など、個々の進路希望に応じた指導を行った。国公立四年制大学へも合格者を輩出した。 ・保護者の68%が本校の進路指導に満足していると回答し、昨年より7%増加した。 ・保護者の70%が進路に関する情報が十分提供されていると回答し、昨年より7%増加した。引き続き進路情報の提供に努めていく。
	キャリア教育の推進	さまざまな行事を通して、早期にキャリア教育に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新社会人の講話を実施し進路意識を高める。 ・学校・事業所見学、職場体験実習、農業体験学習を実施し、進路に対する意識付けを強める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な存在である新社会人の講話は、説得力があり生徒の進路意識の高揚に寄与した。 ・職場体験実習は1人1社にこだわって実施した。高校生活で最も有意義な行事であると生徒は回答している。 ・キャリアアドバイザー通信を定期的に発刊し、情報提供を随時行った。
	資格取得の推進	それぞれの系列で資格取得に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護教育を推進し、地域に貢献できる人材を育成する。 ・教員対象の各種研修を実施し、教員の指導力を高め、学校として統一した指導ができるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も1・2年次生全員を対象として家庭看護講習会を実施した。 ・教員対象の「志望理由書書き方講座実践編」を実施し、教員の指導力を高め、学校として統一した基準で指導できるようにした。 ・積極的な資格試験受験を生徒に呼びかけた。
4.【光り輝く学校づくり】 地域との連携を図る。	地域交流活動の推進	日野高ショップ、各種ボランティア活動を通して地域の方と交流を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い層の方に農場を開放し、専門知識を地域の方に還元する。 ・福祉そば打ち・福祉餅つきなどのボランティア活動に積極的に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「鏡陵大学」「黒坂小学校との農業体験交流活動」などの諸活動を、活発に行った。 ・各種ボランティア活動に積極的に参加して、地域の方との交流を深め、生徒の社会性の高揚につながった。
	部活動、生徒会活動、各種音楽活動による学校の活性化	郷土芸能部・射撃部を中心に活躍している。音楽関連の行事を精力的に実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・人間形成の面からも部活動加入の重要性を説いている。 ・音楽関連諸行事の広報活動に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・射撃部は全国大会・中国大会で大活躍し、「お家芸」にも指定された。 ・郷土芸能部は地域に出かけ、交流活動を積極的に行った。 ・生徒会執行部が中心となって、各種行事を積極的に企画・運営した。 ・音楽を媒介とした各大学との高大連携、西部地区中学校との中高連携など幅広い活動を行った。
	地域や保護者への情報発信	広報誌「日野川」を発行し、ホームページを頻繁に更新するなどして、学校の様子を地域や保護者に発信している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校づくり」を念頭に置き、保護者地域と連携して諸活動に取り組む。 ・新聞掲載やテレビ出演の機会を設け、本校の情報を積極的に発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを頻繁に更新し、本校の情報を地域・保護者へ発信した。 ・保護者アンケートで、子どもを本校に通わせて良かったと回答した保護者は84%で、生徒アンケートでは80%の満足度であった。実際に本校に通っている生徒・保護者の満足度が高い点を、様々な機会を捉えて地域・中学校に情報発信した。 ・部活動や地域と連携した授業の様子などがテレビや新聞で数多く流され、本校の情報発信に寄与した。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:方策の見直し